

町医者だより

＜発行・お問合せ先＞

おおわだ内科呼吸器内科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

シャポール本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポー改札口)

2分ミスタードーナツ並び

ヘアサロンAsh向かいビル2階

電話047-379-6661

おおわだ
内科
呼吸器内科

令和02年11月号

日本の医療の理想像？イギリス

数枚の英文のコピーが手元にあります。イギリス在住の日本人女性が一時帰国し当院を昨年受診した際にコピーさせて頂き彼女の医療記録です。イギリスの医療システムの一端が垣間見れます。問題がなくはないのですが、日本の医療がいかに無駄が多いが分かります。おそらくわが国の厚生労働省も医療費の削減のために同じような医療システムを目指している筈です。

イギリスの医療システムに出てくる重要な単語

例によって町医者だよりの執筆が遅れ、12月に入ってからのこの11月号を書いているのですが、イギリスで90歳のご婦人に世界で第一号のコロナワクチンを接種する映像がニュースで流れていました。そのわきで拍手をしていたジョンソン首相の背景の壁に、NHSという文字が見えたはずです。これは、National Health Service、国民保健サービスの略で、税金を財源としてすべての住民に対して無料で医療サービスを提供するイギリス医療を象徴するロゴになります。患者は自分の地域を受け持つ一次医療（プライマリーケア）であるGP（General Practitioner）と呼ばれる家庭医に登録します。患者さんは何かあった時は登録されたGPを予約して訪ねるのですが、病院への紹介はGPを通してしか行えません。病院はNHSトラストやNHSファンデーショントラストという独立行政法人が運営する病院や民間病院がありますが訪問看護やリハビリ、精神保健サービスとともにセカンダリケアと位置付けられています。それでは、先の日本人女性の医療記録を見てみることにします。

医療記録

2019年8月23日胸痛を訴えてGPを訪問し2種類の薬処方されています。その下に薬剤名と用法用量が記載されています。その1か月後の9月23日にGPを再診して、薬が全く効かずむしろ悪化していると訴えて別の薬が処方されて、また病院にレントゲンを撮るために紹介されます。再診までなんと1か月が経過しています！日本など、痛みが取れなければ、多くの場合次の日、大部分は1週間以内に患者さんは戻ってきてしまいます。翌日の9月24日に先に述べましたNHSファンデーショントラストの病院を受診し本当に胸部レントゲンだけを撮っています。異常所見はなく、最後に前年の3月の写真と変化がないと記載されています。10月2日にGPを再訪し変更した薬剤は2時間くらいしか効かないと訴え薬剤が増量されています。10月6日GPを再訪し病院での検査を依頼しています。病院受診が約3週間後の10月29日で採血検査を受けました。採血と言っても肝機能や血算などごく一般的なものでなのですが、脂質検査とHbA1c（糖尿病）検査から心臓疾患のリスクが少ないことを強調していますので、冠動脈造影などをやりたくないという意識がうかがわれます。驚くべきことにすべてのデータがデータベースに保存されているようでコード化されています。11月1日に彼女は先のGPのもとを訪れ、病院では診断がつかなかったのでCT検査を受けたい言った。との一文を最後に記録が終わります。ここまでで2か月以上経過しています。その後彼女はどうか、結局諦めてプライベートクリニックを予約して自費で胸部CTを撮ったそうです。まずは、自分の医療記録に簡単にアクセスできるのには驚きですが、どうですか、忍耐強さを求められ、一貫して無駄なことはしない英国の医療システムの徹底ぶりは。